

1.4.2 課外活動

【評価項目 8-2-1】 課外活動（スポーツ・文化活動等）

（必須要素）学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている指導、支援の有効性

（選択要素）学生の課外活動の国内外における水準状況と学生満足度

（選択要素）学生代表と定期的に意見交換を行うシステムの確立状況

【評価項目 8-2-2】 学生組織

<2003年度に設定した目標>

1. 西宮上ヶ原キャンパスの課外活動施設（グラウンド）の充実
2. 神戸三田キャンパス課外活動施設（学生会館）の新設
3. 財政援助（課外活動助成基金制度）の見直し

（現状の説明）

本学では、正課外活動（課外活動）には正課活動（教育、勉学活動）だけでは得ることが出来ない様々な教育的価値（折衝力、決断力、意思伝達力、忍耐力、指導統率力等、多様化する社会の中で生きていくための人間基礎力の涵養）があることを十分認識し、支援してきた。課外活動団体は学生の自治組織である学生会の公認団体（体育会42部に1,685名、文化総部39部に1,314名、応援団総部132名、宗教総部40名、新聞総部14名、総部放送局116名が参加）と大学への登録団体（80団体に2,835名）、この他自治会傘下団体（13団体に480名）があり活動を行っている。これら課外活動団体への参加数は合計6,616名（2005年3月現在）で全学生数17,392名（2004年5月現在学生数）の38%にあたる。

この課外活動への参加率の高さから本学では体育会・文化活動が活発におこなわれていることがうかがえる。特に体育会活動においてはめざましい実績を残している。主な実績では2003年度は、全国制覇団体が3団体、全国制覇個人が7名、関西制覇団体が6団体、関西制覇個人が33名、また2004年度は関西制覇団体が11団体、関西制覇個人が32名である。これらの課外活動団体には、専任の教員が部長（顧問）になり、日常的な教育的支援を行っている。また大学（学生部）から財政支援と施設支援を行っている。財政支援としては、学生会財務管理委員会から、大学に対して出される代理徴収依頼に基づいた「学生会費」の代理徴収（約2,675万円）の他、大学が課外活動の振興をはかるため、1985年に設立した「課外活動助成基金」がある。「課外活動助成基金」は大学が基金（86,500万円）を設定し、そこから生まれる果実（1,650万円）をもって、運用している。また、これとは別に本学の経常費の中から「学生活動補助費」（予算額約4,712万円）を設定し、大学祭への援助や課外教育プログラムの運営費の他、学生団体が選抜されて全国大会に参加するときの交通費や宿泊費の1/2援助、部長や監督が合宿等に同行する際の交通費や宿泊費の援助、練習場使用料の援助や物品購入等の援助を行っている。

施設支援としては、学生会の公認団体には、学生会館内に部室があり、練習場についてもキャンパス内で物理的に活動が出来ない部（航空部、ボート部、ヨット部等）を除き、すべての団体は部専用の練習場をキャンパス内にもっている。また、西宮上ヶ原キャンパス登録団体の練習場はキャンパス内にはないが、神戸三田キャンパス登録団体は専用では

ないが練習場がキャンパス内にある。なお、両キャンパスの登録団体とも合同部室はもっている。これら従来からの支援に加え、2000年には、スポーツ活動の拠点であるとともに、キリスト教主義教育の理念に基づく人間形成の場としての課外活動施設としてキャンパスから徒歩ですぐのところに「スポーツセンター」を新設した。この施設は利用料金が非常に安価（体育会学生は1泊1,500円）なため、課外活動団体の合宿等に大いに利用され、2004年度は延べ10,509名の利用があった。また、2002年には科学的トレーニングの拠点としての「トレーニングセンター」を新設し、体育会学生をはじめ一般学生にも大いに利用されている。2004年度の利用者は延べ54,156名、1日平均185名の学生が利用したこととなる。

本学には「学生会」という学生全員が加入している自治組織（1958年設立）がある。ただ、1968年～1969年の大学紛争により、学生会の執行機関である全学執行委員会不在の状況が今日まで続いている。また、法学部を除き学生自治会（学生会常任委員会を構成する組織）も執行部が不在の状況である。このような状況を打開するため、学生達は学生会組織再建に向け様々な活動をしている。大学ではこの「学生会」を学生の一定の声を代表する組織として認め、年2回程度の懇談会を開催している。また、学生会の中に暫定的につくられた「財務管理委員会」（学生会費の代理徴収願い提出と学生会費の配分の権限を大学が認めている組織）と大学祭を実施するための「大学祭実行委員会」を学生会の正式な機関と認め支援している。

（点検・評価の結果）

課外活動団体に対する財政支援の大きな柱である「課外活動助成基金制度」は1985年に創設され、課外活動支援に大きな役割を果たしてきた。しかしながら学生の正課外活動（課外活動含む）も多様化し、特に近年はボランティア活動等に代表されるような意義ある社会活動も増加しつつある。大学ではこのような状況に対応出来る支援体制の整備を急ぎ、2004年の3月に制度の見直しをおこなった。新たな制度では、課外活動の日常活動に対して交付される「一般助成金」、課外活動の活動実績に対して交付される「奨励助成金」、意義ある社会活動やボランティア活動に対して交付される「特別助成金」の3種類を設置し、2004年度から運用を開始した。

西宮上ヶ原キャンパスの学生会の公認団体はほぼ専用の練習場を所有しているが、特にグラウンドは、昔からの土のグラウンドでケガ等も多いし、最近の公式試合は人工芝や天然芝がほとんどであるため、グラウンド関係の改修が必要となりつつある。また、神戸三田キャンパスは、文化活動のおこなうことが出来る専用の施設が無い。このため、学生会館（大学会館）等の建設が必要である。

2000年に新設した「スポーツセンター」は、年々利用者数が増加し、2004年度10,509名の利用があり、課外活動の振興に大いに役立っている。

2002年に新設した「トレーニングセンター」も年々利用者数が増加し、2004年度は、54,156名の学生が利用し、この施設も課外活動の振興に大いに役立っている

学生の自治組織である「学生会」の再建については、学生達の熱意と行動力が必要であるが、大学としては側面的（精神的）な支援をしていかねばならない。また、「学生会」

は現在執行部が不在とはいえ、組織は現存している。このため、大学はこの組織を学生の一定の声を代表する機関として扱い、彼等の声を真摯に受け止め、大学の政策に十分反映させる必要がある。

（改善の具体的方策）

財政支援として「課外活動助成基金制度」の見直しをおこない2004年度から運用している。

西宮上ヶ原キャンパスのグラウンド関係の改修については、2004年5月に近隣（大学より徒歩で3分）の土地を取得した。この場所にアメリカンフットボールの練習場、硬式野球場、馬場の移転を計画中であり、2006年3月頃に移転できる予定である。この練習場は、人工芝（馬場を除く）を敷設し、ナイター設備も設けられる。また、既存のグラウンドについても年次計画の中で、人工芝の敷設が予定されつつある。

神戸三田キャンパスの学生会館（大学会館）も大学第三次中長期計画の中で検討がなされている。